

街をゆき子供の傍を通る時蜜柑の香せり冬がまた来る（木下利玄）

この時期になるとこの短歌を思い出します。何度か授業で扱ったからでしょう。みかんが、甘くおいしい季節です。うっかりするとみつつもよつつも皮だけになっていたりします。

先月初旬に寒い日があったので、今年は冬が早いかと思っていたら、秋は粘り腰で、先週などは外で汗をかくほど暖かい日もありました。例年なら風に舞う白いものを一度は見たように思うのですが、今年はまだありません。しかし季節は確実に移っていて、新見市街を囲む山は既に紅葉ではなく枯色に包まれています。今週は気温も低めに動くようです。



さて、そんな12月に似つかわしく、北校地では生物生産科による葉ボタンの装飾がお目見えしました。「志」という花文字です。新見北高校時代の校訓は「心技錬磨」だったそうです。新見高校ではその精神を継承して、4つの教育目標を「知性の錬磨」「心の錬磨」「体力の錬磨」「郷土愛」としています。「知識や技術を確実に身に付け、社会の多様なニーズに対応できるようになろう」、「思いやりや感動する心など豊かな人間性と社会性を身に付けた高校生になろう」という高い志を持って一年の締めくくりをがんばってほしいと思っています。また、本館の北半分で行われていた耐震化工事が完了し、元の教室に戻りました。移動など仮設通路での不便が解消され、勉強に身が入ることでしょう。

普通科では3年生が国立や私立の推薦入試を終えたところですが、7時を過ぎても教室の灯が消えることはなく、小論文の添削指導を受けたり面接練習を繰り返したりしていました。結果が待たれますが、気持ちを切り替えて、年明け間なしに行われるセンターテスト、一般入試に向けた準備に全力を注がねばなりません。進路が決まった人はクラスメートの支援に回るというのが新見高校普通科のいい伝統です。

下級生はそんな3年生の姿に触発され、明日の自分を思い描きながらがんばってほしいものです。今週は考査前週間、来週は第4回定期考査です。

新見高校の12月はこんなふうに始まりました。今月はどんなトピックスをお届けできるでしょうか。

平成26年12月1日

岡山県立新見高等学校長 松井 健一